

海津木苑運営委員会（令和元年度6月期）

会議録

1. 日時： 令和元年6月26日（水）15時00分 開会
2. 場所： 古賀市海津木苑 会議室

3. 出席委員（11名）

委員長	結城 弘明	副委員長	清原 留夫
委員	智原 和子	委員	内場 恭子
委員	内平 晃二	委員	清原 秀則
委員	清原 透	委員	森 里子
委員	安武 正一	委員	横田 昌宏
委員	星野 孝一		

4. 欠席委員（簗原委員、三好委員、河北委員）

5. 傍聴者数（1名）

6. 事務局出席職員職氏名

市民部長	清水 万里子	環境課長	智原 英樹
海津木苑長	吉田 義昭	海津木苑係長	国本 勝喜
海津木苑職員	古賀 仁尚		

概要

15:00 開会

1. 委嘱書交付
2. 古賀市あいさつ
3. 委員長あいさつ
4. 運営委員・事務局（自己紹介）
5. 協議事項及び報告

- 1) 会議録について（事務局より説明）

- (1) 4月期運営委員会会議録

資料.1

[質疑]

委員： 委員会の個人名は外してあると思うが、意見の中に個人名が記載してあるがこのままでいいのか。

環境課長： ご指摘いただいた個人名については削除させていただき、委員として修正を行う。

(2) 令和元年度6月期運営委員会会議録署名

【質疑・意見】 なし

2) 海津木苑運営に関する実施状況について 資料.2 (事務局より説明)

・平成31年4月及び令和元年5月の処理状況について

【質疑】

委員： 薬品使用状況について、硫酸使用量が昨年対比で増加していることを含め、苛性ソーダ、ポリテツ E、についても使用量増加の説明があったが、前年度と同時期でも状況によって使用量が大幅に増減するという共通の認識でいいのか。

【答弁】

海津木苑長： 苛性ソーダの使用目的は脱臭装置で使用している。これは臭気の度合いで自動制御されており、職員が任意で調整を行うものではない。

臭気の度合いにより苛性ソーダ使用量は変動する。

また、ポリ鉄 E については、沈殿槽から沈降分離した処理水の色度、COD（化学的酸素要求量）を除去するために、ポリ鉄 E を注入し微細な汚泥を沈殿させ取り除いているが、沈殿槽より流入する処理水の状態で添加量を調整しており、今年度の5月は水質状態が良く使用量が減少した。

【質疑】

委員： 薬品の使用量は季節や気温に左右されるものではないのか。

【答弁】

海津木苑長： 季節や気温で薬品の使用量は変化しない。

【質疑】

委員： 5月の水道使用量が暫定数値となっているが使用量が多い理由は。また、使用状況に変化がある場合は事前に説明をいただきたい。

【答弁】

海津木苑長： 5月の水道使用量については、4月、5月に脱水処理を行った回数が多かったことと、場内清掃の洗浄水や脱臭装置の水槽の水を全て抜き、更に水を張り、薬品で脱臭設備のフィルターや配管の洗浄を行ったことから、5月の水道使用量が増加した。

3) 令和元年臭気測定について 資料.3 (事務局より説明)

[質疑・意見] なし

4) 海津木苑施設啓発について 資料.4-1 資料.4-2 (事務局より説明)

[感想]

委員 : 事務局の方も人の感想に対してコメントをすることは大変に難しいと思うが、私も資料を読ませていただき、海津木苑という施設を知らない方が多いということが資料から伺えられるが、なぜ、海津木苑と人権が結びつくのかとすることを初めて知ったとかの感想がある。

私が気になったことは、5月28日の感想で「海津木苑が建設される裏側にあるエピソードを知って同和問題は、どこに行ってもついてくるものだと思えて思うことが出来た。」という感想が書いてあるが、これを書かれた方にとって、もう少し話を聞いてみれば、言葉の中身が理解できるのではないかと思うが、どのような気持ちだったのかと思った。

[質疑]

委員 : 古賀市新規採用職員が28名研修に参加されているが、これは28名の新規採用職員数なのか、欠席者がいたのか。

新規採用職員全員が研修を受けているということを前提に聞いているが、仮に欠席されている職員がいた場合どのような対応をしているのか。

[回答]

委員 : 今回の研修についての確認は取っていないが、基本的に全員研修であるから、当日、体調が悪くて欠席した場合は必ず欠席者にも受けていただく、全員が受けていただくことが大事である。

先ほど委員から感想があったが、言葉の書き方が悪く、本人の悪意はなく、今から自分が市の職員としてやっていく覚悟で書いたものと思う。

私の感想であるが、新採研修で歴史的な経緯も分からないで、「分かりました。」や「知らないことが分かりました。」などの感想にとどまっておき、これが市の職員としての決意表明やもう一歩前に踏み込んだ感想があると、うれしかったが、これは素直な感想で受けとめておきたいと思う。

今後も職員としてしっかりと継続して教育していきたいと考えている。

[質疑]

環境課長 : 先ほど28名の職員研修の話があったが、私は1度だけの研修ではいけないと思う。1度研修を受けて、「はい、分かりました」とはいかないと思うので、何度か研修を受けると思うが、市の計画はどのようにされるのか。

それと、研修を受けられた性別が分からないのだが28名の内訳はどのようになるのか、分かっていたら明記すべきと思うがいかがか。

[答弁]

市民部長 : 研修などは繰り返し行わなければならないことは言われるとおりでと思う。

平成27年度には副委員長へ講師のお願いをし、3日間の日程で全職員に研修をしていただいた。

また、新人研修は毎年研修を行っているところであるが、今後も全職員を対象とした研修を数年置きに行っていきたいと総務部長と協議を行っているが、いつ行うか等詳細な計画は聞いていないが、計画的に研修を行っていくべきだと考えている。

次の男女比であるが私どもの手持ち資料がないので正確な数字はない。

近年はアンケート調査についても男女比等いらぬものについては取らないようになってきているが、基本的に男女比はどのような所で必要なのか。取った方がいいのか。

[質疑]

委員 : 本来であればその辺りもきちんとしておかないといけないし、研修内容も「生命光る町に」の映画も見せているのいるのか、講師については誰だか知らないが、研修行って、このような感想が出たとの報告でいいのか、本来であればどのような研修行って、これは大事なことであり、新しい職員がこれから同和問題を解決していただく職員であるので、しっかりと研修を受けていただかないといけない。

だから「男性何名、女性何名、研修内容はこうである。」これで十分かということになる。

[質疑]

委員 : 上段のアンケートは保護者向けのアンケート表で下段は人数が少なくても新規採用職員のアンケートで、比重が非常にアンバランスだということを副委員長は言われていることや、研修の創意の足りなさなど、職員であったら人権問題などどのように解決していくなどの前向きな発言が欲しかったというところがあるのではないかと思う。

これを見て、職員だったらもう少し、これから先のこのようなやり方でやっていけばいいとか、海津木苑の運営についても、いろんな建物についてももっとこのように変えたほうがよいというような発案、発想があってもよかったし、若しくはそういったアンケートの取り方があっても良かったのではないか、その中で男女比というのはあまり影響がないと思う。

男性の視点と女性の視点はあると思うが、そのようなところが足りなかったのか、研修内容やアンケートの回答があれば良かったのではないか。

せっかく研修を受けたのであれば研修の感想で、これはし尿処理施設を見た感想だけなので、人権問題を自分たちはどのような考えを持っていたのか、若干あるが、やはり職員という立場で見れば良かったのではないか。

[答弁]

委員 : 少し文面が足りない気もするが、新採職員で現在古賀市に住んでいる職員は60%を切っており 40%の職員は古賀市近隣から通勤している職員であることから、本当に初めて聞く話の職員もいたのではないかと思います。

だから、ここがスタートラインであり、これでは物足りないと思っており、行政職員としての責務と自覚、もう一歩前に踏み込んだコメントが欲しかったという気持ちである。

ここをスタートにして、我々の今の職員のこれくらいの理解力なんだと認識はこれで分かるので、継続してしっかりと職員研修を行っていききたいと思う。

私はこの研修に参加してないが、資料の中断に動画を交えたプレゼンテーションとあるが人権研修で「生命光る町に」を全て見せているので、今年度も見せていると思う。

[質疑]

委員長 : 新人研修についてはこれで終わり、この後は全職員を対象とした研修を行うというところで捉えていいのか。

[答弁]

市民部長 : その通りである。

[補足]

環境課長 : 環境課でも課のテーマを決めて行っており、1年目は「生命光る町に」を臨時職員、委託職員を含め全職員に見せて検証を行い、海津木苑が建設された経緯の研修を行い、2年目については海津木苑に実際に来て海津木苑がここに建てられた経緯について研修を行い、3年目もどの職員も答えられるように海津木苑の研修を行っているところである。

また、各課はそれぞれのテーマを決めて人権研修を行っている。

今回海津木苑でおこなったような研修については市民部の課長に次回の研修では海津木苑の施設見学及び海津木苑で一緒に研修を行おうという提案をさせていただいているので、今後、海津木苑で研修を行う課もあると思われ、必要な資料等については提供し、環境課からも発信していきたい。

[質疑]

委員 : 海津木苑設置に関する啓発協議が1年に一度行われるが、各部長の人権意識が薄いと感じる部分がある。

先ほどテーマを決めて研修をしていると言われるが、その方にどれくらいの人権意識が深まっていっているということが分からないはずである。そういうものを分からないといけないと私は思っている。

どのくらいこの研修が活かされたということがどのようにしたら分かるのかということを知りたい、これだけの時間を割いて研修を行い、「海津木苑のことを知りました。」「感想を書きました。」感想を軽い気持ちで書かれると困る。

市の職員になっておられるので、どのくらい上乘せされて研修を積まれていつているのか、深みを感じているのかというところが啓発協議の時に出てくると思うが、こちらの質問に対してのトップクラスの方の自分の課ではこのような研修を積んでいるという胸を張って言える部長はあまりいないような気がする。

[答弁]

環境課長： 研修は繰り返し行うことが大切と思っており、1回で伝わる場合もあると思うが、理解したと思っけていてもそのような状況に直面した時にどのように対応するのかということについては、一度研修をしたから分かるというものでもない。そのときにどう対応するのか自分自身の身についたものでないと思えないと思う。

先ほど十分ではないとのご意見をいただいたが、環境課としては研修だけではなく、日ごろ困っている市民の皆様と対応させていただくときもあり、随所で人権の視点を据えながら業務を遂行することも含め、日頃よりお互いに声を掛け合いながら行っていきたいと考えている。

研修の日だけではなく、日ごろのなかで意識をするというきっかけが研修の日であろうと思う。不十分であると思われるところもあると思うがこれを続けていくことが大切であると思っており、ご理解をいただきたい。

[意見]

委員： そのような事は各部長に伝わっているのか、反省会などあっているのか、ただ思っけているだけでは、環境課長が思っけているだけでは市役所全体に浸透しない、そこが一番ネックではないかと私は感じる。

[意見]

委員： アンケートとは良いものを吸い上げるのではなく悪いものを吸い上げると私は考えている。

意見もいろいろと出たが、皆さんは割とプラスな意見であると感じているが、大事な事は参加された方がどのように表現して、どのように伝えて、どのように感じてもらっていて、どのように記憶に残すのかというコミュニケーションが大事だと思う。

先週、役員を対象にした海津木苑の出前講座があつたが、失礼ながら感じたことは、出前講座に慣れていられると思つた、なぜかというとな一方的な説明と感じた。

私は慣れているかもしれないが私自身物足りなかつた。

これで本当に伝わるのか、ここに参加している方に何を伝えたいのか？と感じた。

そう言つた意味では、要望や、出前講座の内容そのものの伝え方がどうだったのか、伝えたいことが分かりましたか？ など今後活かす前向きな手法や工夫、今回はこの部分を失敗したとか、次回こうしてみようとかなどがベースとなつてつながつて行くと思うので、アンケート用紙のフォーマットがそうなつていないので、記入欄になると意外と悪いことは書けなくなり、意外と難しいが、どのようにした

ら良いものになるかというところを吸い上げるアンケート用紙にすべきではないか、こういったところにも、課題や工夫や改善点などが見えてくるようなものにならないと、ただ行って、出して、こうだったと感じているので、今後、改善してほしいと思っている。

5) 次期し尿処理施設について (事務局より説明)

- ・古賀市次期し尿処理施設に関する事前打ち合わせ (第 17 回) 5 月 15 日 (水)
- ・古賀市次期し尿処理施設に関する事前打ち合わせ (第 18 回) 7 月 3 日 (水) (次回)

[提案]

委員 : 新しく委員になられた方もいられるので次期し尿処理施設の事前打ち合わせは概ねどのようなものなのか報告をお願いしたい。

[報告]

海津木苑長 : 次期し尿処理施設の代表者は地元区長、区役員 4 名から 5 名、地元農区より 2 名、鹿部支部 3 名、地元市会議員 1 名で構成され協議を行っている。

[質疑]

副委員長 : 冒頭に話をしたように、昭和 55 年に当時の町長はし尿処理場をお願いに来た時は、区長に話をされた、そこははっきりとさせておかなければならない。

まず、古賀市は区と話をしなければならない、それが基本である。

そこはよろしいか、区がその後どのようなにするかということで、農区、支部ということになるので、そこをぶれないようにしておかないといけないのではないかと思う。

その辺りはきちんとしておかないと、今のように訳が分からなくなると言えばおかしな話であるが、市長と区長で最終的に協定を行うのであるから、内容は区がどうするのかという話である。

私は当時支部長をしていたが、一緒に協定締結ということは出来ない、ということで立会人ということで一步下がっている。だからきちんと整理をして、新しい議員はご存知ないので、このように区に申し込んでいく、後は区長がいるので、このようにしているので報告したらいいのであり、部長にも伝えておくがしっかりとやっていただきたい

4. その他

16 : 40 閉会

※ 次回の運営委員会は、8 月を予定している。

以上

この会議録が正確であることを証明するため会議録署名人次に署名捺印する。

令和元年 月 日

委員長

印

委員長の指名する
出席委員

印